



東北小だより

～学校教育目標～
なかよく元気な子
よく考える子
すすんで働く子

開校56年目

新座市北野3-1-1 Tel 048-471-2022
HP <https://e-tohoku-c-niiza.edumap.jp/>

令和6年度3月号
全児童数 826名

不完全の中から成長への新たな道筋を

～ 笑顔いっぱい 歌声響く 東北小学校 ～

校長 齊藤 直之

さて、1月の話になりますが、メジャーリーグで活躍したイチローさんが、アジア人ではじめてアメリカ野球殿堂入りしたというニュースが流れてきました。満票には1票足りず、「一体だれが投票しなかったのか」などと話題にもなりました。

私は、ギネス記録に登録された、通算安打数4367、通算打率3割2分2厘、日本での最優秀選手3回、ベストナイン7回、ゴールドグラブ賞7回等の功績から、満票での選出を期待していたので、どうして満票でなかったのか、疑問に感じていました。

そのような中、満票にならなかったことについて、イチローさんの会見を見ることができました。

「不完全であるのはいいな、って。生きていくうえで不完全だから、進もうとするわけで。そういうものを改めて考えさせられるというか。見つめ合える、向き合えるというのはよかったなと思います。」

と語っていました。私は、単純にプラス思考ですごい人だと感心していましたが、この会見に対しても、共感する人が多かった一方で、反論する人も見られました。ここで考えたことは、私たちの生活の中では、どこか完全を求めているのでしょうか、ということです。

これは、学校教育でも考えなければいけない問題となります。テストの点数でよい点数が取れば最高ですが、もちろん、体調が悪い時があれば、ミスをするときもあるかと思います。しかし、その不完全な部

分ではなく、そこに至る過程も認めてあげているのでしょうか、ということです。

努力を重ねても、結果が出なくても、そこに至るまでの子供たちの努力を評価してあげることが次への意欲へとつながるからです。

完全ばかりを評価対象としたら、周りの人から認められないとやる気が出ないといった承認欲求が強い大人になってしまうのではないのでしょうか。

結果ばかりに目を向けると、間違いを指摘ばかりして、本人にとってよりよい支援につながっていかないこととなります。子供たちも指摘だけされれば、当然やる気も失せて、次への成長が望めません。

不完全な中から、自分の弱さを知り、どう克服するのか、自ら考えることが向上心へとつながっていくのでしょうか。

人間は、生まれたときからすべてができってしまう完全なものではありません。だからこそ、失敗の中からも学んだ知識や技能を活用し、新たな課題にチャレンジしていく力をもった人間を目指すのです。

学力の向上には、非認知能力の向上が関係していることは、言うまでもありません。このまとめの時期にこそ、不完全な自分を振り返り、よりよい自分を目指す、心意気のある児童の育成を図りたい。学校も完全体ではありません。明らかになった課題があるならば、学校が成長する貴重なご意見として、真摯に受け止め、さらなるバージョンアップを目指し、令和7年度の教育活動につなげてまいります。